

# 放射能との賢い つきあい方を考える — 3.11後の今、 ベストに生きるために —

日時:平成25年6月8日(土)、10月5日(土)

両日とも13:30 ~ 16:00

※両日とも同じ内容です。どちらかご希望の日を選択してください。

場所:宇都宮大学 地域連携教育研究センター

参加費:無料、定員:各日20名(先着順、要申込)

担当者:井上 直子(宇都宮大学大学院教育学研究科修士課程)

コーディネーター:堀田 直巳(宇都宮大学教育学部教授)

## 申込方法:

地域連携教育研究センターへ直接おいでになるか、電話、郵送、FAXのいずれかでお申し込みください。郵送、FAXの場合は、

①本講座のタイトルとご希望の日にし ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号を明記してお送りください。

※頂いた個人情報は、事前の本講座へのご要望アンケートや、本講座に関する連絡のみを目的として使用させていただきます。

## 申込受付期間:

平成25年5月13日(月) 午前10時より受付を開始し、各開催日について、定員に達するまで受け付けます。

## <お申し込み・お問い合わせ先>

宇都宮大学地域連携教育研究センター

〒321-8505 宇都宮市峰町350

TEL 028-649-5144 FAX 028-649-5145

(月～金 10:00～12:00 / 13:00～16:30)

## 【プログラム】

[1] 放射線とその健康影響についての科学的な基礎知識の話

[2] 放射線測定の実験

[3] 放射能と賢くつきあい、ベストに生きるために——自由な話し合い

※詳細な内容は、お申し込みいただいた皆様に事前に希望をお伺いして検討する予定です。

## 担当者より、皆様へ

はじめまして。私は宇都宮大学大学院教育学研究科の理科教育専修で、社会人学生として、科学と社会のあり方や、原子核物理学を勉強しています。

福島原発から漏れ出てしまった放射性物質は時間が経たない限りなくならないわけですから、私達は当分の間、放射能とつきあっていかなければなりません。私達皆が、放射能と賢くつきあい、3.11後の今をベストに生きるために、私が学んでいることを生かして、何かすこしでも役に立つことができないか——そう考えて、この講座を企画しました。

放射能と賢くつきあうにはどうすればよいか？一人ひとりが「これを食べるのは控えておこう」とか、「このくらいの被曝は許容しよう」とか、**自分にとってのベストの判断ができる“放射能リスクの相場観”を養うこと**だと私は考えています。

これはなにも放射能に限ったことではありません。たとえば、冷蔵庫の中で古くなってしまった食材。食べても大丈夫か——そんなとき、においをかいでみて、あるいは少量を口の中に入れてみて、判断するのではないのでしょうか。

では、放射能汚染の場合は、となると、においをかいでも、味わってみても、放射線を感じることはできませんから、測定器を使って放射線量をはかります。その値を科学的に導き出される健康影響の目安と照らし合わせ、様々な観点から総合的に検討して判断することになります。「このくらいの被曝量なら許容する」とか、「うちは小さな子どもがいるから、できるだけ放射線量の少ないものを選ぶ」とか、判断結果は、一人ひとり違って当然です。大事なものは、一人ひとりが筋道立った根拠をもって、自分にとってベストの判断ができるようになることだと思います。

本講座では、まず、科学的な基礎知識の習得と放射線測定の実験を行い、そのうえで、参加者同士でざっくばらんに疑問や不安、考えを語り合うことで、「自分にとっての放射能との賢いつきあい方」を見いだしていただければと願っています。

宇都宮大学大学院教育学研究科修士課程

理科教育専修 堀田研究室（物理学）

井上 直子

## ■コーディネーターのプロフィール

堀田 直巳（宇都宮大学教育学部教授、理学博士）

専門分野：宇宙線物理学、放射線物理学

宇宙を飛び交う高エネルギー放射線（宇宙線）の研究を行う一方で、高校生や教員向けに放射線の飛跡を可視化する「霧箱」を用いた実験講座を行うなど、放射線教育にも力を入れています。